

2019年6月20日
行政報告資料
町田市民病院事務部 経営企画室

町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）及び 事業計画の進捗状況について（2018年度）

町田市民病院では、質の高い医療サービスを提供し、安定した病院経営を維持していくために、「町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）」を策定し、これに基づき、経営改善を進めております。

このたび、2018年度の進捗状況をまとめましたので、その結果を報告いたします。

添付資料

- ・ 町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）の進捗状況について（2018年度）

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2018年度）

2019年6月20日
行政報告資料
町田市民病院事務部経営企画室

1. 患者・マーケットに関する取組 ～患者サービスの向上と医療連携の推進～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2018年度(全期)の実績	自己評価
<p>(1) 患者満足度の向上</p> <p>【2019年度】 入院患者満足度 90% 外来患者満足度 85%</p>	<p>入院患者満足度 89% 外来患者満足度 83% 受付番号システム利用率 100% 予約センターの設置</p>	<p>入院患者満足度 89.8% 外来患者満足度 88.0% 受付番号システム利用率 93.8%</p>	<p>・受付番号システムの活用 ・予約診療の見直し ・土日退院・日曜入院の推進</p>	<p>・6月に患者満足度調査を実施しました。満足度は入院89.8%、外来88.0%といずれも目標を上回りました。</p> <p>・歯科・歯科口腔外科にも受付番号システムを導入し、使用率が向上しました。</p> <p>・地域連携予約枠の拡大や眼科の紹介予約制導入など、予約診療体制を強化しましたが、予約センターの設置にはいたりませんでした。</p> <p>・患者が安心して入院生活を送り円滑に退院できるよう、看護師・事務が事前に入院生活のオリエンテーション・問診等を行う、入退院支援センターを10月に開設しました。</p> <p>・患者の利便性向上のため、タクシー呼出電話を設置しました。</p>	○
<p>(2) 情報提供の充実</p> <p>【2021年度】 病院ホームページアクセス件数 12万件/月</p> <p>【2019年度】 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件</p>	<p>病院ホームページアクセス件数 10万5千件/月</p> <p>病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 50件</p> <p>市民公開講座の開催回数 6回</p>	<p>12万2千件/月</p> <p>48件</p> <p>6回</p>	<p>・見やすさを重視したホームページの整理</p> <p>・ホームページへのクリニカルパス掲載</p> <p>・市民公開講座の開催</p>	<p>・臨床指標ページなど情報発信を積極的に行ったこともあり、アクセス件数は月あたり約12万2千件となりました。</p> <p>・クリニカルパスの見直しを実施し、ホームページへの掲載数は48件となっています。クリニカルパスとは、疾患や治療法ごとに作成する医療の標準的なスケジュールです。入院後のイメージをつけられるよう、公開を推進しています。</p> <p>・市民公開講座は、6月、8月、10月、11月(2回)、1月の計6回、予定通り開催し、延べ468人の参加がありました。</p> <p>・地域医療機関向けに診療科の実績や医師の紹介を掲載した「町田市民病院診療案内」を新たに作成・配布しました。</p>	○
<p>(3) 医療連携の推進</p> <p>【2019年度】 紹介率 65% 逆紹介率 45%</p> <p>【2020年度】 地域医療支援病院 承認</p>	<p>紹介率 66% 逆紹介率 60%</p> <p>地域医療支援病院の承認 地域医療に関する委員会開催回数 4回 地域連携交流会開催回数 1回 地域医療従事者向け研修 15回 連携医登録医療機関数 200件</p>	<p>70.7% 65.6%</p> <p>承認 4回 1回 22回 433件</p>	<p>・複数の医療機関への逆紹介の推進</p> <p>・地域医療支援病院の承認</p> <p>・地域医療従事者向け研修の実施</p>	<p>・地域からの紹介患者獲得を目指し、医療機関訪問を継続して行った結果、紹介率は70.7%となり、2017年度実績(65.9%)に比べて4.8ポイント増加しました。</p> <p>・退院時のかかりつけ医への積極的な情報提供を継続するなどした結果、逆紹介率は65.6%となり、2017年度実績(51.8%)と比べて、13.8ポイント増加しました。</p> <p>・紹介率や逆紹介率などの承認要件を満たしたことで、中期経営計画の予定を2年前倒して、8月に東京都から地域医療支援病院の承認を受けました。</p> <p>・かかりつけの医師・歯科医師などからの要請に適切に対応し、地域の医療を確保するための支援を行うことを目的として、町田市医師会、町田市歯科医師会、町田市薬剤師会、町田消防署、町田市保健所の代表者、および、当院長・副院長で構成される地域医療に関する委員会を年4回開催しました。</p> <p>・地域医療機関との顔の見える関係づくりをするため、11月に地域連携交流会を開催し、院内外合わせて86名の参加がありました。</p> <p>・各種認定看護師や外部講師による地域の医療従事者向けの研修会を22回開催しました。</p> <p>・相模原市等の市外にも連携医の登録を呼びかけた結果、連携医登録医療機関数は433件となりました。</p>	◎
<p>(4) 高齢患者に安心な退院支援の充実</p> <p>【2019年度】 退院支援件数 1,400件/年 （「退院支援加算2」の算定件数）</p>	<p>退院支援件数 2,500件/年 （「退院支援加算1」の算定件数） ※退院支援加算1と退院支援加算2の主な違い ・病棟への退院支援職員の配置の要否 ・面談、カンファレンスの実施期限の有無</p>	<p>2,628件/年</p>	<p>・退院支援の実施</p>	<p>・入院時に行う退院支援スクリーニング対象患者の見直しを行った結果、入退院支援件数は2,628件(219件/月)となり、2017年度実績(166件/月)と比べ53件/月(31.9%)の大幅な増加となっています。退院後に介護保険サービスを円滑に利用できるよう、高齢者支援センターなどと協力して退院支援を行っています。</p> <p>・在宅医師や看護師、介護支援専門員とカンファレンス等を行い、患者の退院後の療養や生活について情報連携を行った件数(退院時共同指導料及び、介護支援連携指導料算定件数)は915件となり、2017年度実績(714件)を上回りました。</p>	◎
<p>(5) 小児医療・周産期医療の確保</p> <p>【2018年度】 小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 75件/年</p>	<p>小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 111件/年</p>	<p>21人/日 109件/年</p>	<p>・小児入院体制の維持 ・ハイリスク妊産婦の積極的な受入</p>	<p>・外来診療や予防接種の充実等により入院が必要な児童が減少しているものの、NICUの病床利用率が上がったため、小児入院患者数(新生児内科含む)は21人/日となり、2017年度実績(19人/日)と比べ2人/月増加しました。なお、医師会との連携強化により、紹介率は74.1%と2017年度実績(69.4%)に比べて4.7ポイント増加しました。市内で唯一の小児入院医療施設として、一般診療の他、循環器外来やアレルギー外来などの専門診療を行っています。</p> <p>・母体搬送受入件数は109件(9件/月)となりました。南多摩保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、今後も積極的な受け入れを行ってまいります。</p>	○

<自己評価凡例>

◎:事業計画目標を上回った ○:概ね事業計画目標を達成できた △:事業計画目標を下回った ×:事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2018年度）

2. 収支改善に関する取組 ～収益の向上と費用の削減を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2018年度(全期)の実績	自己評価
(1) 病床の安定的稼働 【2021年度】 病床利用率 85% 新入院患者数 1,000人/月	病床利用率 83.5% 新入院患者数 940人/月 有償利用率 45%	78.5% (一般82.6%、特定53.8%) 900人/月 46.7%	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関訪問の実施 稼働率の低い病床の活用方法の検討 特別室の利用率向上 	<ul style="list-style-type: none"> 地域からの紹介患者獲得を目指し、連携医療機関など、200件を超える医療機関を訪問しました。 地域連携の強化を図り新規の入院患者増に努めましたが、新入院患者数は900人/月となり、2017年度実績(914人/月)を下回りました。 特定入院料を算定している小児病棟や緩和ケア病棟などを除いた一般病棟の病床利用率は82.6%となりましたが、病院全体の病床利用率は78.5%となり、2017年度(79.0%)から0.5ポイント減少しました。稼働率の低い病床の活用について、引き続き検討を行っていきます。 入退院支援センターで特別室の案内を行うなどしたことにより、有償利用率は46.7%となり、2017年度(37.9%)に比べて8.1ポイント上昇しました。 	△
(2) 診療単価の上昇 【2020年度】 入院単価 58,000円 外来単価 14,500円	入院単価 57,500円 外来単価 13,000円 地域医療支援病院の承認(再掲) 総合入院体制加算3の取得 病棟薬剤業務実施加算の取得	61,311円 11,771円 承認取得 取得	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設基準の取得 慢性期患者の逆紹介の推進 算定率向上に向けた取り組みの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率や逆紹介率などの承認要件を満たし、中期経営計画より2年間前倒して、8月に東京都から地域医療支援病院の承認を受けました。これにより、地域医療支援病院入院診療加算の施設基準を取得しました。 医師事務作業補助者を増員し、逆紹介時の情報添付の件数を増やしたことにより、総合入院体制加算の要件を満たして施設基準を取得することができました。更に入院患者に対する精神科の診療体制を整えたことにより、目標より高い基準である総合入院体制加算2を取得することができました。なお、医師事務作業補助者の増員により、15対1医師事務作業補助体制加算の施設基準も取得しました。 各病棟に専任の薬剤師を配置することで、7月に病棟薬剤業務実施加算を取得しました。医療安全の確保、チーム医療の推進及び服薬指導等の充実による患者サービスの向上に繋がっています。 看護補助職員の夜間配置を充実させ、看護業務の負担軽減を行い医療の質を向上させたことで、夜間急性期看護補助体制加算等の施設基準を取得しました。 経営改善プロジェクト(落穂拾いプロジェクト)を立ち上げ算定率向上推進の項目を選定し、算定率向上の取り組みを行いました。 以上の取り組みにより、入院単価は61,311円と目標を上回りました。外来単価は11,771円と目標を下回りましたが、地域医療支援病院の承認以降は、これまで以上に紹介患者を中心とした医療を提供することにより単価が上昇しました。 	◎
(3) 材料費の削減 【2017年度】 ジェネリック医薬品使用量比率(DPC) 80% (入院のみ) 【2020年度】 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)	ジェネリック医薬品使用量比率 90%超 院外処方率 90% 診療材料費削減額 550万円/年 (単価差積算ベース) 薬品費の値引き率 12.5%	92.7% 88.0% 約880万円/年 11.76%	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者へのジェネリック薬品の採用促進 外来患者への院外処方の推進 診療材料費の削減 薬品費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 内服剤・外用剤以外に注射剤においても、積極的にジェネリック薬への切り替えを進めています。 院外処方箋の発行について医師に働きかけを行い、院外処方率は88.0%となりました。 共同購入、商品切替、価格交渉により、診療材料費を年間で約880万円削減することができました。 薬品の値引交渉を行った結果、値引率11.76%で妥結し、年間削減額は約10,200千円となりました。 	○
	その他 【目標】 光熱水費 前年度比10%減 借上資産の契約終了に向けた交渉	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費 前年度比5.95%増 一部調整終了 	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費の削減 借上資産の効率的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> コージェネシステムの効率的運用に努めた結果、電気使用量は対前年度比4%削減、ガス使用量は3%削減することができました。また、水道使用量はほぼ横ばいでした。しかしながら、電気・ガスの単価が上昇したため、光熱水費としては5.95%の増加となりました。 看護師寮(借上げタイプ)は、2020年3月末に借上げ終了にすることで所有者と合意しました。 	△

<自己評価凡例>

◎:事業計画目標を上回った

○:概ね事業計画目標を達成できた

△:事業計画目標を下回った

×:事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2018年度）

3. 業務向上に関する取組 ～病院機能の向上を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2018年度(全期)の実績	自己評価
(1) 救急診療体制の充実 【2020年度】 救急車による受入患者数 460人	救急車による受入患者数 455人/月 救急応需率 75%	480人/月 70.1%	・救急隊との連携強化	・東京消防庁提供資料による直近1年間の応需率は70.1%となり、2017年度実績(73.8%)を3.7ポイント下回りましたが、救急車による受入患者数は480人/月となり、過去最高となった2017年度実績(474人/月)を上回りました。 ・「地域医療に関する委員会」にて、地域の救急医療体制について消防署代表や医療関係者と意見交換を行い、連携を強化を図りました。	○
(2) 災害拠点病院としての機能の充実 【2017年度】 連携訓練回数 1回/年	連携訓練回数 1回/年 南多摩保健医療圏災害拠点病院間における通信訓練 1回/年 DMAT隊1編成の維持	1回/年 1回/年 維持	・災害時を想定した医療機関等との連携推進 ・DMAT隊員の養成	・町田市に合わせて8月27日に防災訓練を実施しました。訓練の結果を生かし、災害対応マニュアルの見直しを行いました。 ・南多摩保健医療圏の通信訓練に3回参加しました。 ・DMAT隊1編成を維持し、12月に関東ブロック訓練に参加しました。	○
(3) 急性期病院としての質の向上 【2018年度】 手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,000単位/月	手術件数 4,475件/年 (麻酔科管理件数 2,955件/年) リハビリ実施単位数 5,500単位/月 クリニカルパスの定期的な見直しの実施 入院支援センターの設置	手術件数 4,693件/年 (麻酔科管理件数 3,042件/年) リハビリ実施単位数 5,667単位/月 クリニカルパス 見直し実施 入院支援センター設置完了	・手術室運営の効率化 ・土曜日のリハビリ実施検討 ・クリニカルパスの定期的な見直し ・入院受入時の業務の効率化	・整形外科などで手術件数が増加した結果、手術件数は4,693件(うち麻酔科管理件数3,042件)となり目標を上回りました。 ・リハビリ実施単位数は5,667単位/月と目標を上回っています。また、土曜日のリハビリ実施に向けた検討を行い、1月から3月にかけて8日間試行しました。 ・クリニカルパスについて、上半期にはDPCの面から見た適正化の周知、下半期にはバリエーション評価の見直しと、パス評価に対する再周知を行いました。見直したバリエーション評価に基づく分析を行い、クリニカルパスのさらなる質の向上に繋げていきます。 ・10月に入院支援センターを開設し、運用を開始しました。入院時の説明や聞き取りを入院予約時に行うことで、入院患者の効率的な受入れが可能となりました。患者及び病棟スタッフの負担軽減に繋がっています。	○
(4) 病院機能評価の更新 【2017年度】 病院機能評価の更新	定期的な業務改善の実施	実施	・業務改善の継続的な実施	・2017年度の認定更新の際に、明らかになった問題点の整理を行うとともに、認定から3年目(2019年度)に義務付けられている質改善活動の報告(期中の確認)に向け準備を行いました。	○
(5) 外来機能の効率化 【2021年度】 外来患者数 1,000人以下/日 【2019年度】 地域連携予約枠利用者数 400人/月 逆紹介件数 970人/月	外来患者数 1,120人/日 逆紹介件数 1,200件/月 予約センターの設置(再掲) 医師事務外来配置の推進	1,126人/日 1,296件/月	・予約診療の見直し(再掲) ・医師の負担軽減	・外来患者数は1,126人/日となり、目標を概ね達成しました。 ・退院患者に対するかかりつけ医への積極的な情報提供を継続するなどした結果、逆紹介数は1,296件/月となり、2017年度実績(1,036件/月)と比べて260件/月(25%)の増加となりました。 ・地域医療機関からの紹介予約件数は422件/月となり、2017年度実績(372人/月)を上回りました。 ・地域連携予約枠の拡大や眼科の紹介予約制導入など、予約診療体制を強化しましたが、予約センターの設置にはいたりませんでした。 ・外来の医師事務作業補助者を前年度の5名から6名増員し、11名としました。紹介状の作成や資料添付などの医師の事務作業の補助を行うことで、医師の負担軽減が図られています。	○
(6) 外来化学療法センターの運営効率化 【2018年度】 化学療法実施件数 200人/月	化学療法実施件数 200人/月	180人/月	・ベッドの効率的な運用	・外部医療機関に外来化学療法センターの案内を送るとともに、ベッド数を増やし、実施枠(時間割)の見直しを行った結果、180人/月となり、2017年度実績(171人/月)を上回りましたが、目標には達しませんでした。	△

<自己評価凡例>

◎:事業計画目標を上回った ○:概ね事業計画目標を達成できた △:事業計画目標を下回った ×:事業計画目標を大きく下回った

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2018年度）

4. 進化・成長に関する取組 ～人材の安定確保と育成を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2018年度(全期)の実績	自己評価
(1) 質の高い病院職員の安定確保 【2021年度】 (常勤職員数) 医師 93人 医療技術 97人 看護師等 402人 事務 42人 (うち病院専任) 14人 計 634人	病院専任事務職員数 14人 臨床研修指導医 19人	12人 19人	・病院事務職員の専門性向上 ・研修医師の指導体制の充実	・医事課に医事事務を3名採用し、病院専任事務職員は12人(医事事務8名、医療ソーシャルワーカー4名)となりました。 ・臨床研修指導医は、2017年度末に1名が退職し16名となりましたが、3名が指導医講習会を受講し19名となりました。 <2019年3月時点> 医師 87人 医療技術 96人 看護師等 394人 事務 40人 (うち病院専任) 12人 計 617人 ※育休及び退職者は含まず	△
(2) 質の高い医療従事者の育成 【2018年度】 医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,600人/年	医療安全講習会参加率 100% 感染対策講習会参加率 100% 研修ポイント制度の導入	96% 93% 導入決定	・医療安全・感染対策などの研修の充実 ・研修参加率の向上	・医療安全・感染対策講習会を計5回実施しました。講習会当日に受講できなかった職員を対象にビデオ上映、DVD貸出、個別の講習会開催など複数の手法で研修参加率の向上に取り組んだ結果、延べ参加人数は4,006人(医療安全2,399人、感染対策1,607人)となり、参加率は医療安全で96%、感染対策で93%となりました。 ・研修参加を促す仕組みを検討し、当初予定していたポイント制度ではなく、研修参加実績を可視化するシール制度の導入準備を行いました。 ・認定看護師が1名増加し10分野15名となりました。また、1名が特定行為研修に参加し、特定行為研修修了者が3名となりました。	○
(3) 職員満足度の向上 【2021年度】 職員満足度 65%	職員満足度調査結果に基づいた業務改善の実施	一部実施	・職員満足度調査結果に基づいた業務改善	・職員満足度調査に基づいた業務改善策をまとめ、看護業務の記録の見直し等の改善を実施するとともに、各部門に改善状況の進捗確認を行いました。 ・風通しが良く働きやすい職場を目指して職員交流会を開催し、202名が参加しました。また、病院運営に大きく貢献した職員の表彰を行いました。	△

<自己評価凡例>

◎:事業計画目標を上回った

○:概ね事業計画目標を達成できた

△:事業計画目標を下回った

×:事業計画目標を大きく下回った